

令和元年度第2回 田辺市障害者施策推進協議会 会議録

1. 開催日時 令和2年1月27日 月曜日 午後7時～午後8時
2. 開催場所 田辺市民総合センター 1階 機能訓練室
3. 出席委員 委員27名中 出席21名 欠席6名
4. 事務局 障害福祉室 馬場崎室長、山崎主任、西崎保健師、梶垣事務員
5. 内 容
 - ① 開 会
 - ② 会長挨拶
 - ③ 議 題
 - (1) 田辺市第一期自殺対策計画について
 - (2) その他

6. 議題に対する質疑応答

議題(1) 田辺市第一期自殺対策計画について

●会長

庁内でいろんな議論がなされていると思うが、こういった対策が有効であるといった話はでているか。

○事務局

これからということもあるんですが、基本的に、ご本人に届けるには、啓発や周知といった現実的なところが一番取り組んでいきやすいところです。ケアマネさんや相談支援専門員さん等に、密に関わっていただいております。自殺企図の傾向にある方や自殺未遂の経験のある方等を把握していることも多いので、そういう方々やご家族の方に、相談窓口の資料を届けてもらったり、あるいは、やれるところからやっていくということと庁内全体が意識を持って連携しながら、自殺対策を進めていくということで、連携を密にしていこうということだと思います。

●会長

大人の場合だと支援の方法そのものに、金銭的な支援というだけのものではなくて、生活そのものを支えていくという支援がなされないと難しい要素があるのではないかと。自殺対策だけではなく、障害者や高齢者についてもそうなんですが、生活そのものを支えていく部分がないと非常に難しい部分がある。例えば、補助金が出たとしても、帯に短しタスキに長しという部分があって、それがあっても支えにならないというケースも多いと思う。どれだけ、寄り添った対応ができるか、実際に現場を知った人間がどれだけ動けるかということ。差し迫った逼迫した現場ですので、そんな悠長な話はしてられない部分がある。ですから、そういった部分を踏まえて、議論をしていかなくてはいけないと思う。これから、計画を立てるところですから、まだ、そこまで行かない

とは思いますが、そういったことを踏まえてできるだけ、制度に当てはめるのではなくに人に寄り添った支援の在り方を計画していただきたいと思います。

○事務局

今、おっしゃられたことをこれから協議してまいりながら、第二期・第三期の計画において、精度の高いものにしていければと思います。

●A委員

計画の13ページ、男性60歳以上の無職・独居の孤立した方についての説明がありましたが、孤立した状態で、死ぬこと以外の選択肢は考えられないということで、私の印象としても自殺する方が多いと感じています。高齢の方は、せっかくの制度があっても、迅速に頼るとかが苦手になっていると思うんです。そういう手立てを思いつかないというか。介護保険のサービスもあるかと思うんですが、高齢の方と制度を結びつけるような仕組みのようなものがあればいいと思うので、ご検討いただきたい。

○事務局

田辺市の在宅介護支援センターでは、65歳以上の高齢者のお宅を、地域別に分けた担当者が1年に1回ぐらい訪問して把握している。その担当者は、地域のことや個人のことをよくご存じの方も多いため、ケアマネさん以外にもそういう地域で活躍している方々にも、自殺予防啓発パンフレット等をまいて回ってもらったりとか、チェックリストとかで、うつ傾向のある方等も把握してもらっております。

そういう部分でも連携しながら、適切な相談窓口や制度のこと等につながるように橋渡ししていただいたりして関わっていただくというのも一つなのかなと感じております。

●B委員

自殺防止ということですが、人の悩み事とかいうのは、その人の話をよく聞くことである。自分の悩みを話したり、聞かれたことに対して答えていると、悩んでいる方は、こうすべきであったんだなというような自分自身の答えが出てくる。自殺を考えている方に対してもそういうことではないかと思うんですが。

○事務局

自殺を考えている方に対しても、よく話を聞いてあげる、傾聴というのがすごく大事なことであると思います。あと、気づいてあげて、相談先につないであげることが大事なことになってくるとは思います。一番、ダメなことは、話をそらせたりとか、「そんなことない。」と言って、励ましたりとか、あまりそういうことはしないこと、相手の気持ちを聞いてあげるといような対応を知っておくのと知らないのでは、全然、違うと思うので、そういうことを市民の方々が、知っておくことは大事であると思います。

●C委員

先程の意見にもございましたお金なんですけど、一時金をポンとだして済む問題ではないと思います。長期的な支援が必要になると思うんですが、この事業に予算はどれぐらいついていますか。

○事務局

この計画を作成するのに対して、通信費と印刷代の予算があります。計画を作成する

にあたり、業者さんが入って、一緒に分析してもらって、より専門的にやりたかったのですが、この計画は、障害福祉室が中心でつくりました。今後は、もう少し予算があればと思います。

●D委員

計画策定の予算の話しであったかと思うんですが、自殺対策の予算というのは、総合的なものであると思いますので、県の方でも、平成28年に計画をたてて、先ほどからも説明があったとおり、自殺の原因は、非常に多岐にわたっておりまして、その対策に多くの関係課が関係して、いろいろな事業で自殺を少しずつ少なくしていくということが、自殺対策になっていくと思います。県でも、自殺対策は非常に重要だと考えていますので、一緒にやっていけたらと思っております。

一つお願いなんです、この計画にいろいろな関係課の事業が並んでいるんですが、計画をつくって終わりというわけではなくで、関係する課と連携を深めて、少しでも目標達成に向けて頑張ってもらいたいと思います。

○事務局

県の状況について、お話ししていただきました。田辺市の計画自体についての予算というのは、少ない状況ではありますが、今までの個々の事業、各施策の具体的な取組事業として、29ページ以降にいろいろと載せさせていただいております。これについて、各課が、この計画を立てるにあたり共通の認識をもって連携を進めていくというかたちで進みだしたところがございますので、先程、ご要望をいただいたことについて、庁内の連携を取っていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

●会長

密にしながら連携を取っていくということは重要なこととなってきます。

田辺市障害者施策推進協議会の委員の中で、まったく出てきていないところもありますので、もし、出席できない場合は、代理を立てるとかといった連携を取っていただきたい。

議題(2)その他

●会長

先程からのお話しにもでていますがけれども、高齢者に対するバリエーション的な問題であったり、寄り添いながらいかに話を聞いてあげること。障害のある方に対しても同じようなことなんですけれども、否定語を使わないとか、つい頑張れと言ってしまいたくなるんですが、頑張れと言わないとか頑張りすぎないようにさせるとかが非常に大事なので、委員さんの中にはそういったことをご承知の方がほとんどであると思うのですが、もし今まで気が付いていないことがあれば、そういうことも気にしながら、いろんな対策や計画を作っていきたいと思っております。

●A委員

実際に、自殺したいとか死にたいとかいう人がいたらどうすればよいかということです。私たち精神科医は、まずその方と向き合います。それで、つらい気持ちは共感する、わかるんですが、死にたい気持ちまでは共感できないし、死んでもいいですよとは言ってはいけません。死にたいという気持ちは、どんな理由があっても共感してはいけな

い。つらさは共感するけれども、死にたいという気持ちは共感しないということを約束してもらうことを、まずお願いしたい。精神科にすぐに行きなさいという言い方はよくないと思うが、そういう気持ちが続くのであれば、私のところや他の精神科医のところへ行ってもらうということの提案もしていただければと思います。制度はあるけれども、その制度の中で、多分、自殺ということに関して、あまりこの職員の中で触れたくないというのがあるんです。自殺の話をごまかそうとすると、死にたいという気持ちを伝えられなくなると思うので、ひょっとしたらですが、死にたいと思う気持ちはないですかぐらいは、多少突っ込んで言ってもらえたら、「実はそう思っていました。」とか「あるんです。」ということで、話しが広がって防げることもあると思うので、死にたいという気持ちではないかという意味を確認して、自殺したいとか死にたいとかの気持ちがあっても、そこはしないように約束すること。その二つの約束をお願いできればと思います。

●会長

そのところが一番大事なので、もし、そういったところに遭遇した場合は、本人が自殺しないようにするための、最善の策を講じてほしいということです。よろしくお願いします。